

子宮頸がんワクチンの副作用

前号で厚生労働省が子宮頸がんワクチンの副作用についてこの5年間に接種した338万人に係る追跡調査結果を発表しましたので、その一部をQ&Aの形で記載しました。

今回はその続きです。大まかに言えば副作用として悪い結果、頭痛・倦怠感・間接痛・認知機能の低下などを引き起こした人は0.05%でした。もともとワクチン接種のリスクはゼロにはできないことなので、国としてはその時の救済制度を早くに確立する必要があります。(Q&Aの番号は全号の続きになります。)

Q8, ヒト・パピロウイルス(HPV)はどの位感染しやすいのですか。

A8, 子宮頸部の細胞に異常がない女性のうち、10~20%程度の方がHPVに感染していると報告されています。また、海外では性行為を行う女性の50~80%が、生涯で一度はHPVに感染すると報告されています。

Q9, HPVに感染すると必ずガンになるのですか。

A9, HPVに感染しても90%以上の場合、2年以内にウイルスは自然に排出されるとされています。しかし、ウイルスが自然に排出されず、数年から数十年にわたって持続的に感染した場合にはガンになることがあると報告されています。

Q10, 子宮頸がんを予防する方法はありますか。

A10, それは予防ワクチンを接種することで、HPVの感染を予防することです。また、子宮頸がん検診を定期的に行うことでガンになる過程の異常(異型性)やごく早期のガンを発見し、経過観察につなぎ、負担の少ない治療につなぐことができます。

Q11, 子宮頸がん検診はどのようなものですか。

A11, 20歳以上の女性は2年に1回、検診を受けることをお勧めします。一般的には子宮頸部の細胞を採取して細胞に何らかの異常がないかを検査する「子宮頸部細胞診」が行われています。

Q12, 子宮頸がん予防ワクチンの検診・接種場所など何処に問い合わせればよいのですか。

A12, 法に基づくワクチンの接種は地域の実情に合わせて地域ごとに行っています。最寄りの市町村の予防接種担当課に問い合わせして下さい。

Q13, 子宮頸がんワクチンは絶対受けねばなりませんか。

A13, 強制ではありませんが、一人一人が接種することで社会全体を守ると言う側面があるため、努めて接種するのが望ましいという考えです。しかし、その有効性とリスクは理解した上で、というのが国としての観点です。

Q14, 何回接種すればよいのですか。

A14, 3回の接種が必要です。先ずは中学1年生となる年度に、その後1ヶ月後に2回目を、さらにその6ヶ月後に3回目を接種するのが標準です。

Q15, それはどのように効くのですか。

A15, 子宮頸がん全体の50~70%の原因とされている2種類のヒトパピロウイルス(16型と17型)などに持続的な予防効果があり、現在2種類のワクチンが販売されていますがガンになる手前の異常(異形成)を90%以上予防したと報告されています。

オキシトシン(ホルモン)

お母さんが赤ちゃんを世話する時に分泌される物質で「愛情ホルモン」と呼ばれたりします。

元来、子宮の収縮や母乳の分泌などを促すホルモンです。出産を経験すると今まで子供は好きでなかったのにわが子に強い愛情を注ぐようになるのはこのホルモンのせいです。

男性の脳でもオキシトシンは育児を促します。育児を通して分泌されるようになり、育児をすればするほど育児が好きになる可能性が大きいのです。イクメンを育てるという施策は科学的といえるのかも知れません。

オキシトシンの効果は育児以外の日常の場面でも作用します。鼻孔に噴霧すると鼻腔から吸収されますので、無条件に相手を信頼してしまう可能性があります。どんな不利な条件でも愛想よく相手の提案を受け入れてしまう可能性があります。昔、「ほれ薬」と呼ばれて本当に存在したのか分からない架空の薬が現実的となっています。

その他、イヌは飼い主の目をしきりに見つめます。ヒトとイヌとが見つめ合い、触れ合うと両者にオキシトシンが分泌されます。そこで両者の信頼関係が愈々増幅され、飼い主は犬を“ネコ可愛がり”に可愛がります。犬派の成立です。

... ..

《あとがき》 今月5日から当院ミニギャラリーは**三宅繁樹**さん(若狭町麻生)の油絵です。退職後の2010年に「つばな会」に入会し、油絵を始めたところ。そして、示現会にすぐ入選した「金閣寺」を展示してあります。